

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇塩ビリサイクル支援制度成果報告会の開催

■ [随想](#)

◇日本のお祭りシリーズ（その4） ー小豆島中山地区の虫送りー

関東学院大学 織 朱實

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇塩ビリサイクル支援制度成果報告会の開催

去る7月5日に、[塩ビリサイクル支援制度](#)で6件目と7件目に採択しました太平洋セメント株式会社の「塩ビ含有廃プラスチックの脱塩素燃料化システムの開発」と、蟹江プロパン株式会社の「塩ビターポリンやレザーなど塩ビ複合製品のリサイクル技術開発」の成果報告会をVECで開催しました。

それぞれ、H24年11月、H25年3月に完了した事業で、それぞれの成果につきましては、このメルマガでご紹介させていただきました。

（蟹江プロパン(株)：[No. 397](#)；

発行年月日：2013/02/14、

太平洋セメント(株)：[No. 407](#)；

発行年月日：2013/04/25です。）

ここで簡単に紹介しますと、蟹江プロパン(株)は、ターポリンやレザーの耳くずを、熱板を介して簡便に塩ビ素材と他の素材を分離する技術を、太平洋セメント(株)は、シュレッターダストに含まれる塩ビ製品などから塩素分を除去した石炭代替のプラスチック燃料を得る新規な方法の開発です。

まだ、両社とも開発中の技術であるため残念ながら関係者のみの会となりましたが、6名の評価委員の方全員にも出席いただき、両社には支援期間中の成果と今後の進め方・課題について説明いただきました。

それぞれ技術開発に事業化が見えるところまでの進展があり、今後事業化を見据えた技術開発をさらに進めていくことを報告会では表明されており、是非、技術開発が進展し、新しい塩ビリサイクルのシステムが構築されることを期待してやみません。



■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その4） ー小豆島中山地区の虫送りー

関東学院大学 織 朱實

小豆島、というとどんなイメージをお持ちでしょうか？ たぶん、大抵の人が真っ先に思い浮かべるのが「24の瞳」や「オリーブ」。関西地区になじみのある人なら、さらに「醤油」「そうめん」と続くかもしれません。そんな小豆島に、7月初旬、松江の帝人工場にポリエステル繊維リサイクルの現場を見せていただくのと絡めて、「虫送り」を観に行ってきました。「虫送り」あまり聞いたことのないお祭りと思いますが、小豆島だけでなく全国で夏に五穀豊穡を願う害虫退治が、さまざまなかたちで行事として行われています。



小豆島では、江戸時代から300年以上、^{ひとやま}肥土山地区と中山地区で、この「虫送り」が行われていましたが、中山地区では、さまざまな事情で7年ほど中断されていました。この中山地区の虫送りの行事が、映画「八日目の蟬」のロケをきっかけに、地元の自治会の皆さんの努力によって復活したのです。



今年は、復活して3回目の中山地区の「虫送り」ということで、映画「八日目の蟬」の成島出監督やスタッフも勢ぞろいして、「映画をきっかけに、地元の人たちが復活させた虫送りの行事。それも3回目！僕たちが応援しなくてどうするという気持ちで、今日は馳せ参じました」と場を盛り上げてくれました。



さて、「虫送り」とはどんな行事なのでしょう？映画を見たことがある人なら、「田んぼの間を明かりが縫っていくような幻想的なシーンを、「あ～！あれね」と思い浮かべるでしょう。私は、最初に小説を読んで、自分の中でイメージを持っていたのですが、実際にどんなお祭りなのだろう？一度見たい！と長く思っていました。今回、このメルマガをきっかけに「行ってみよう！」と思いたち、小豆島まで足を延ばし、ついに念願かなって実際の「虫送り」を見て参加することができたので、感動もひとしおです！

7月6日(土) 18時30分に湯船神社に、島内外の参加者約180名が集合(こちらは、急こう配なルートで、もう一つお子さん用に荒神社出発の緩やかなルートがあり、そちらは約120名の参加者)。五穀豊穰、害虫退治のご祈祷ののち、参加者はそれぞれ手に火手を持ち、「灯せ〜、灯せ〜！」とゆっくり掛け声をかけながら、100m位の勾配がある棚田をゆっくりと足を取られないように、気を付けながらそろり、そろりと降りていきます。



湯船神社は、小豆島霊場44番札所で湯船山からは湧水が湧いていて、この湧水を利用して中山地区では棚田が作られているとのこと。日本の棚田の中でも水を上までひかなくていい棚田というのは珍しそうです。この棚田が整備され、昼間は青々として本当に美しいのです。この美しい棚田が、ゆっくりと夕暮れに青く沈むころ、火手に灯りを順々に灯もした人々が、「灯せ〜、灯せ〜」と棚田を降りてくる様子は、本当に幻想的です。きっと300年前から、同じ景色が続いてきたのだろう、と改めて感じ入ります。



目的地は、農村歌舞伎も行われている中山春日神社。そばでは、ちょうど瀬戸内国際芸術祭参加作品、王文志氏の「小豆島の光」がライトアップ中。こちらは、5000本の竹で組まれた巨大なドーム(形状は、「風の谷のナウシカ」の王蟲のよう)がLED照明で赤や青に変化していきます。この日は、特別に夜間入場が認められ、虫送りに参加した人たちは、「小豆島の光」の内部も楽しむことができました。

さて、この日は、出発前に突然の大雨。流れてしまうのか?と心配しましたが、通り雨。村の人たち、消防団の皆さんと湯船神社で、雨が通り過ぎるのを小一時間ほど待っていました。この待ち時間の間、住職さんが参加者の方から「八日目の



蝉の映画に出ていましたね、ちょっと太ったのでは?」とからかわられていたり、成島監督とみなさんが写真を撮っている様子を見たり、自治会の方から復活させるにあたってのご苦労などいろいろ伺う事ができ、また、思いがけない再会もありました。急な雨に、ご祈祷のために用意された護摩木が雨で湿ってしまわないように一生懸命、傘をさしかけている男性に声をかけたら、なんと「小豆島町長さん」!そして、お話をしていると、前は環境省で廃棄物行政にかかわっていたらっしゃったとのこと・・・二人で、「15年ほど前にお

会いしたことがありますよね？」廃掃法改正の時の審議会で一緒にお仕事をしたことがある方でした！世間は、狭いですね。

この幻想的な行事も、塚越の花祭りと同じように子供の減少などから、存続させるためにどうやってお金を集めるかの問題にも直面しているとのこと。火手も手作り、神社までのバス代や打ち合わせ費用等、お金がかからなさそうにみえて、やはり必要とのこと。この日島外からの参加者は、うちわや手ぬぐい購入募金に協力しました。来年もぜひ、実施していただき、美しい棚田とともに伝統行事が続いていくことを応援できたらと思います。



初めて訪問した小豆島は、思っていたより広く、また女性の力を活用して様々なイベントが開催され、今回はゆっくり観光ができなかったのですが、実写版「魔女の宅急便」のロケ地や、5月と10月に開催される農村歌舞伎、札所めぐり、本当に見どころがたくさんです！小豆島は初めてで、虫送りもどのように進められるか皆目見当もつかなかったもので、小豆島観

光協会の稲葉さんには本当にお世話になりました。[観光協会のHP](#)さらに[塩田町長のブログ](#)も充実しているので、小豆島訪問を考えていらっしゃる方は是非こちらも見てください！
⇒ [私のブログはこちらです。](#)
⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

我が家で飼っている老文鳥が止まり木から突然落下し、その後うずくまったまま水も餌も取らない状態が続きました。その日の昼は家人が誰も居らず締め切っていたので、ひょっとしたらとネットで調べたところ熱帯生まれの鳥も熱中症になるとありました。昨年まではこのようなことはなく、今年の暑さは格別だと再認識させられました。この暑さは今夏続くようですので、読者の皆様も体調に十分注意され、暑さを乗り切ってください。(可)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp